

「インクルーシブ教育の第一歩」 ～みんなが参加できる教室づくり～

貝塚市立木島小学校 志禮 義隆
(本年度、貝塚市東小学校へ転勤)

1. はじめに

近年、全国的に少子化傾向にある中で、支援が必要な児童生徒は増加している。本校でも同様に、児童数は毎年減少しているが、支援が必要な児童は増加している。

本校では児童のチェックリストを作成し通常学級の担任に困り感のある児童の把握をしてもらっている。その際には、全校の20%を超える児童が何らかの困り感があると挙げられる。支援学級籍の児童に対して通常学級における支援をすることはもちろんのこと、通常学級籍で困り感のある児童に対しても支援をする必要がある。

さまざまな個性、特性を持つ児童に対し少しでもその困り感を減らすためにはどのような手立てがあるのかを教職員で意見を出し合った。誰もが違うということ为前提として、困り感のある児童と困り感のない児童がともに安心して過ごすことのできる学校になるよう、インクルーシブ教育システムの構築に必要な環境整備や授業の流し方について考えることとした。

2. 支援体制について

・学級編成、時間割の工夫

支援学級のクラス分けをする際に、同学年の児童がなるべく同じ学級になるように編制をした。

(表1)

表1 支援学級の学級編成

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
知的1			1		5		6
知的2	1	6					7
知的3	1			3		2	6
自閉 情緒1	1	2	3				6
自閉 情緒2				1		4	5

各学年の国語と算数の時間を学年でそろえている。各学年の時間割を決める際は、まず支援学級から時間割を組めるようにしてもらっている。そうすることで、支援学級での学習の人数の調整を行うことができ、通常学級での入り込みの時間を確保することができた。(表2)

表2 平成27年度支援学級時間割表

学級	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
知的1		3算	5算	自	5-2	3国	3算		5-2	3算	5算	自	5-2	5国	3-3	5算	3算	5-2	5算		3算	5-2	3国		
知的2	2-2	1算	2算	自		2-2	1国	2国	1算	2算	2-2	2算	自	1算	1国	2国	2-2	1算	2算		2算	2-2	1国	2国	
自閉 情緒1	1-2	2算	3算	自		3国	3算	2国	2算	1-2	3算	2算	自	1-2	2国		2算	3算		2算	3算	1-2	2国	3国	
知的3	1-1	1算	5算	自	4算	1-1	1国	4国	1算	4算	1-1	5国	1算	4算	5国	4国	1算	4算	1-1	4国	5算	1-1	1国	4算	
自閉 情緒2	1-3	5算	4-2	自		1-3	5算	4-2			4-2	5国	5算	1-3	5国	5算	4-2		1-3	1-3	5算	4-2			

※自…自立活動

・通常学級の入り込みの支援

支援学級籍の児童だけでなく、通常学級で困り感のある児童への支援ができるようにした。低学年へは、登下校・朝の会・給食などに入り込み支援をし、高学年へは、放課後学習などに入り込み支援をした。

3. 教師の意識を高めるために

2015年度は校内研修で年間5回の支援教育研修を行った。「一般社団法人 発達支援ルームまなび」の苦廣みさき先生に2回来ていただき、「ユニバーサルデザインの理解と支援」として授業づくりや教材づくりについて話をしていただいた。また、大阪体育大学の後上鐵夫先生に3回来てもらい、「インクルーシブ教育の推進と合理的配慮」として基礎的な考え方などについて話をしていただき、教職員の共通理解を図った。

また、学習準備や聞き方、話し方など80項目についての「教師のチェックリスト」を作成した。各学期の終わりに教職員に自分の振り返りをしてもらい、自分自身の課題を意識してもらおうようにした。(資料1)

4. 教室の環境整備

「みんなが安心して参加できる」ためにはどのような教室にすればよいかを考えた。支援教育研修会で苦廣みさき先生に教えていただいた授業のユニバーサルデザイン化モデルの中から、「時間の構造化」「場の構造化」と「刺激量の調整」に着目し、状況理解の不十分さや見通しのなさへの不安、不注意・多動の児童に対する手立てに取り組んだ。(図1)

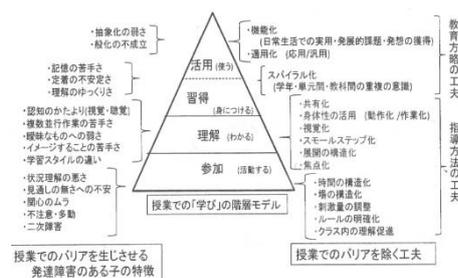


図1 授業のユニバーサルデザイン化モデル

(1) 授業中の不要な情報を取り除くために、前面の黒板の右側にはカーテンを取り付けた。また、1日の見通しが持てるように、黒板の左側には時間割を書くためのホワイトボードを取り付けた。(写真1)



写真1 黒板周辺の環境整備

1日の時間割を書くためのホワイトボードを取り付けたことで、黒板に日にちや曜日、時間割を書く必要がなくなり、黒板の全面を使用することができるようになった。

教科のプレートに色を付け（国語：赤、算数：青、理科：緑、社会：黄、生活：緑）授業で使うノートの色も合わせるようにした。

教科の右側には、単元名などを書くことで教師の負担が増えるということを考慮して、単元名などを書くのではなく、必要な物や移動する場所を書くようにした。（写真2）【時間の構造化】【場の構造化】

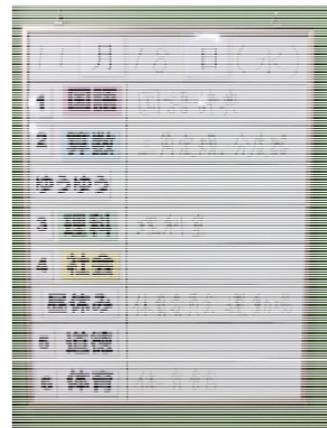


写真2 時間割用ホワイトボード

掲示物については、基本的にカーテンの中に貼るようにし、授業中は見えないようにカーテンをした。貼りきれない掲示物については、教室の横や後ろ、廊下などに貼るようにした。また、「声のものさし」や「姿勢の見本」「発表の仕方」など、どの教科でも活用できる掲示物については、黒板の上に貼るようにした。

どの掲示物を黒板の上に貼るかや、時期に応じて取り外すかなどは、学年の裁量に任せた。（写真3）【場の構造化】【刺激量の調整】



写真3 掲示物を隠すカーテン

（2）授業中の雑音を軽減するために、机と椅子にテニスボールを取り付けた。（写真4）【刺激量の調整】



写真4 椅子に取り付けたテニスボール

（3）清掃時の視覚支援として、雑巾をかける箇所に用途によって洗濯ばさみの色と名前シールの色を変え、雑巾の使い間違いや片付けの間違いがないようにした。

（写真5）【場の構造化】



写真5 雑巾かけ

(4) 班ごとに水筒や体操服などを入れるためのカゴを置き、片付ける場所を決めるようにした。カゴの色を変えたり、カゴに班のプレートつけたりすることで、よりわかりやすくした。



写真6 水筒を入れるためのカゴ

5. 学習の流れの統一

「みんなが安心して参加できる」ための教室環境を整備するとともに、学習の流れを統一できるように取り組んだ。授業のユニバーサルデザイン化モデルの中から、「視覚化」「展開の構造化」「焦点化」に着目し、曖昧なものへの弱さやイメージすることの苦手な児童に対する手立てや、学習スタイルの違いを少なくするように取り組んだ。

(1) 授業を始める姿勢を整え、心と体を落ち着かせるために「立腰」教育を10年ほど前から取り組んでいる。毎日1時間目の開始時に校内放送でCDを流し、全校一斉に取り組めるようにしている。また、教室に座り方の見本の絵を掲示し、どのようにすればよいかをわかるようにした。



写真7 すわり方を示した掲示物

(2) 黒板の板書を写すことに時間がかかる児童や本読みのときに同じ行を何度も読んでしまう児童に対して、見るための力を高めるために「ビジョントレーニング」に取り組んだ。週1回ある全校集会の時にCDを流し、全校一斉に取り組めるようにしている。

(3) すべての教科で「めあて」を立てるようにし、学習のねらいを把握できるようにした。また、学習の振り返りもするようになった。学習の振り返りをする際は、低学年では「わかい」、高学年では「かわいいまま」の観点で振り返りができるように、掲示をした。

話し合いやかいけつをするときに
だ い じ な こ と

わ - わかりやすい

か - かんたん

い - いつでも使える

話し合いや解決をするときに
大 事 な こ と

か - かんたん

わ - わかりやすい

い - いつでも使える

い - いい考えはどれか

ま - まとめられないか

ま - 前に学習した考え
と同じところ

(写真8)(写真9)【展開の構造化】

写真8・9 ふりかえりを示した掲示物

(4) 授業での活動の流れ(見る・聞く・考える・書く・話す・読む)を示す掲示物を使い、「今何をする時なのか」「どんな学習があるのか」などのイメージや見通しが持てるようにした。(写真10)【焦点化】

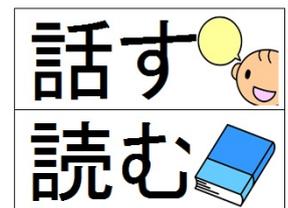


写真10 活動の流れを示した掲示物

(5) 授業での話し方や聞き方をわかりやすくするために、お話の聞き方「あいうえお」や「声のものさし」の掲示物を使い、視覚的に示すようにした。(写真11)(写真12)【視覚化】



写真11・12 声のものさし(左)・お話のききかた(右)

6. おわりに

教職員からは、教室の環境整備を行うことで「児童から次時の教科や内容、学習での活動の流れの質問が減った」や「聴覚過敏の児童が落ち着いて授業を受けることが増えてきた」などの意見があった。また、学習の流れの統一を行うことで「授業中に児童に指示をする回数や同じことを繰り返し指示することが減った」「振り返りなどで自分の意見を一人でノートに書くことができる児童がいた」などの意見があった。授業のユニバーサルデザイン化を進めることで一定の成果が得られたと考えられる。

しかし、教職員全体で共通理解をすることの難しさや意識を継続することの難しさなどの課題も出てきた。また、「小学校で支援があることに慣れてしまうと、卒業後に支援がない場所で生活する時に、困るのではないか」という意見も出てきた。

授業のユニバーサルデザイン化をすることで、学年が変わっても学習の流れや掲示物などに大きな変化がないため、児童にとって安心して過ごすことのできる学校への第一歩だと考える。しかし、すべての学年ですべての支援をするのではなく、児童の発達段階に応じて取り入れることが大切である。子どもの様子を観察し、その状況に応じて支援が必要かを考え、柔軟に使い分けるようにしたい。そのためにも、教職員が一丸となって取り組みを進めていけるように、今後も研修会や職員会議などで定期的に確認をするとともに、さらなる研究をすすめるようにしていきたい。

(参考文献)

- ・長岡UDLの会・長澤正樹・小林浩子・古田島恵津子『みんなにやさしい授業づくりのためのチェックシート』<http://www7b.biglobe.ne.jp/~udl/>
- ・授業のユニバーサルデザイン研究会・桂聖・石塚謙二・広瀬由美子(2014):『授業のユニバーサルデザイン Vol.7 授業のユニバーサルデザインとインクルーシブ教育 道徳授業のユニバーサルデザイン』東洋館出版社
- ・エンパワメント研究所 ドロップレット・プロジェクト編(2010)『視覚シンボルで楽々コミュニケーション 障害者の暮らしに役立つシンボル1000 CD-ROM付き』筒井書房
- ・TOSSランド <http://www.tos-land.net/>

教師用チェックリスト①

～どの子にもわかりやすい授業づくりをめざして～

該当する項目を選択して、「実践している→○」「意識している→◎」「意識していない→△」「記入しなかった→□」の記号を記入してください。	
1	1日のスケジュールを提示して、朝の会で確認している。
2	1時間の授業や活動の流れを板書や掲示物で示している。
3	授業の終了の前に始末をさせ、次時の準備をさせている。
4	休憩時間に済ませておくべき事(トイレ・水分補給・鉛筆削りなど)を教えている。
5	毎時間後、黒板がきれいに消されている。
6	忘れ物があったときの援助の求め方を教えている。(貸しノート・鉛筆・消しゴムなど)
7	授業の開始前に必要の用具を準備しているか、確認している。
8	月や週の予定を掲示し、スケジュールを知らせている。(学校だより・学年だよりなど)
9	特別な学習用具の準備は余裕(1週間以上)をもって知らせている。
10	教室の整理整頓に心がけ、不要なものを置かないようにしている。
11	児童の机の中やロッカールの使い方を決めて、統一している。
12	授業で使うファイルや資料の置き場所を決め、整理整頓している。
13	配布物は、その場ですぐに整理(ファイルや連絡袋に入れる・ノートに貼るなど)をさせている。
14	下校前に机の周りの整理整頓をさせている。
15	授業の開始時刻と終了時刻を守っている。
16	授業開始時間に席に座り、待つことを教えている。
17	授業の開始と終了のあいさつをしている。
18	話し手を見て、口を閉じ、最後まで話を聞くように指導している。
19	注目をさせて(私語と作業を止めて)から、指示を出している。
20	一つの指示で一つの課題を出している。
21	簡潔に説明を終了している。(長い説明にならない。)
22	1時間の授業のねらいを伝えている。
23	児童を引きつけ、考えさせる教材や教具を用意している。
24	児童を引きつける声の調子や抑揚、表情、身体表現を取り入れている。
25	望ましい姿勢を教え、維持するように指導している。
26	許可した以外は離席しないように教え、維持するように指導している。
27	具体的で分かりやすい言葉を使っている。
28	視覚的手がかり(板書・教科書など)を添えて、説明している。
29	前面黒板の周りが整頓されている。
30	指示を出した後、児童が理解したかどうか全体の様子を確認している。
31	児童の集中時間を考え、授業を複数の活動(読む・調べる・考える・作業・発表・まとめるなど)に分けて進めている。
32	授業の内容と日常生活を結びつけるように意識し、指導に取り入れている。
33	児童の意欲を削ぐような発言(誹謗・中傷・からかいなど)や不適切な発言には、望ましい発言の仕方を見せている。
34	授業の求め方を教える(隣の人や友達に聞く・静かに挙手をして教師に聞くなど)、使うことができるようにしている。
35	聞いて欲しい人を見て発表するように指導している。
36	丁寧な言葉遣い(敬称、です・ますなど)で話すように指導している。
37	場(教室・グループ・隣同士など)に応じた声の大きさと話すように指導している。
38	話し方や意志表現の型やパターンを示し、使えるように指導している。
39	考えをまとめる時間を確保している。
40	学習活動に応じた学習形態(一人調べ・隣同士・グループ学習など)を取り入れている。
41	援助の求め方を教える(隣の人や友達に聞く・静かに挙手をして教師に聞くなど)、使うことができるようにしている。
42	活動意欲を削ぐような発言(誹謗・中傷・からかいなど)や不適切な発言には、望ましい発言の仕方を見せている。
43	丁寧で穏やか、肯定的な話し方をしている。
44	児童の望ましい発言や行動を積極的に評価し、みんながほめるように指導している。
45	

教師用チェックリスト②

～どの子にもわかりやすい授業づくりをめざして～

該当する項目を選択して、「実践している→○」「意識している→◎」「意識していない→△」「記入しなかった→□」の記号を記入してください。	
46	作業をする時間を確保している。
47	口を閉じて作業するように指導している。
48	最後尾の児童に見える文字の大きさと板書や教材掲示をしている。
49	授業の流れや考え方が分かるように板書や教材を掲示している。
50	色・マーク・ライン・囲みなどを工夫して大事な所を示している。
51	板書や掲示教材とノート・プリントが連動する(ノートと同じマス目黒板・掲示教材と同じワークシートなど)ようにしている。
52	複数の課題や小分けにした課題を用意し、個人差に対応している。
53	個に応じた支援教材(九九表・50音表など)や支援器具(電卓など)を使わせている。
54	作品見本・手本・例文などを示し、自分の考えやイメージを持たせるようにしている。
55	全体への課題を出した後、個別に支援が必要な児童に支援を行うようにしている。
56	友だち同士で教え合う場を設定している。
57	多様な方法で、発言(拳手・並び順・児童同士による話し合いなど)をさせている。
58	多様な方法で、発言(拳手・並び順・児童同士による話し合いなど)をさせている。
59	児童が好きなことや得意なことを授業の中に取り入れていく。
60	イラスト・カード・補助黒板・視覚機器などを使用している。
61	課題の達成率を確認して、授業を進めている。
62	集中力を高める位置や人間関係に配慮して、座席やグループを決めている。
63	一人一人の良さを紹介し合い、認め合う機会を作っている。
64	結果より、努力したことを具体的に取り上げ、評価している。
65	児童の特性や長所を生かした係活動の設定をしている。
66	当番活動の手順や順番を分かりやすく示している。
67	当番や係活動を自主的に進められるようにして、できていることをほめている。
68	担任や児童の個性や長所を生かした学級全体で取り組む活動を日常的に行っている。
69	トラブルがあったときの解決方法を示し、児童同士でも解決ができるように指導している。
70	ルールを守っている児童を多様な方法で取り上げ、ほめている。
71	特別な場合(学級ルールの基準を満たさなくても良い事例・人物・場面)を教え、学級の児童が納得をしている。
72	必要な時期に、該当のルールが必要な理由を説明し、練習させている。
73	学級のルールが緩んでいるときには、必要に応じてルールの確認や修正をしている。
74	学級のルールが目に見える形(掲示・カードなど)で示し、説明している。
75	学級のルールを違反した場合は、やり直しをさせている。
76	やり直しの後で学級のルールを守ることができたら、ほめている。
77	個人的な特徴や問題で学級のルールに違反があったときには、近くのモデルとなる児童をほめ、注目させるようにしている(大声や怒鳴るなどの方法を用いないなど)。
78	個別の声掛けによる援助で改善が見られない場合には、全員に課題を出し、個別に対応する時間を作ってから、対処するようにしている。
79	同じルール違反やトラブルを繰り返す児童には、時間をとって対処方法について話し合いを行い、対応策を立てている。 ①ルールを守れない理由やトラブルを解決する方法を一緒に考える。 ②ルールを守るための方法やトラブルを解決する方法を一緒に考える。 ③解決策がまとまったらリハーサルをして、できたことをほめる。 ④守ることが困難な場合は、別の解決策を考え、リハーサルをして、できたことをほめる。 ⑤ルールを守ることができないときや似たような状況への対処方法も一緒に考え、約束や対策の掲示、対処方法を事前に伝えておく。
80	学級のルール違反が頻繁な児童については、学年や支援コーディネーター・管理職に連絡し、支援の方法を求めている。